

# 三重県の認知症施策について

～令和6年度 of 取組の推進～

---

令和7年3月11日

令和6年度

認知症施策推進会議

三重県医療保健部  
長寿介護課

# 令和6年度 三重県の認知症施策の推進 ①

## 地域支援体制の強化と普及啓発について

### ○キャラバンメイト養成研修の実施

認知症サポーターを養成する「認知症サポーター養成講座」の企画・立案及び実施を行う「キャラバン・メイト」を養成することを目的とする。

- ・ 講師：平田先生（三重大学病院）、鈴木先生・吉原先生（認知症介護指導者）
- ・ 開催日：令和6年6月27日（木）三重県庁講堂 98名受講

### ○チームオレンジコーディネーター研修の実施

コーディネーターを養成し、市町においてチームオレンジの構築を進める。

- ①チームオレンジの立ち上げ
- ②ステップアップ講座の企画・開催
- ③チーム運営に対する助言等
- ④自治体管内のチームオレンジネットワークの構築

※コーディネーターは市町村等に1名以上配置される。

（認知症地域支援推進員等の兼務可）

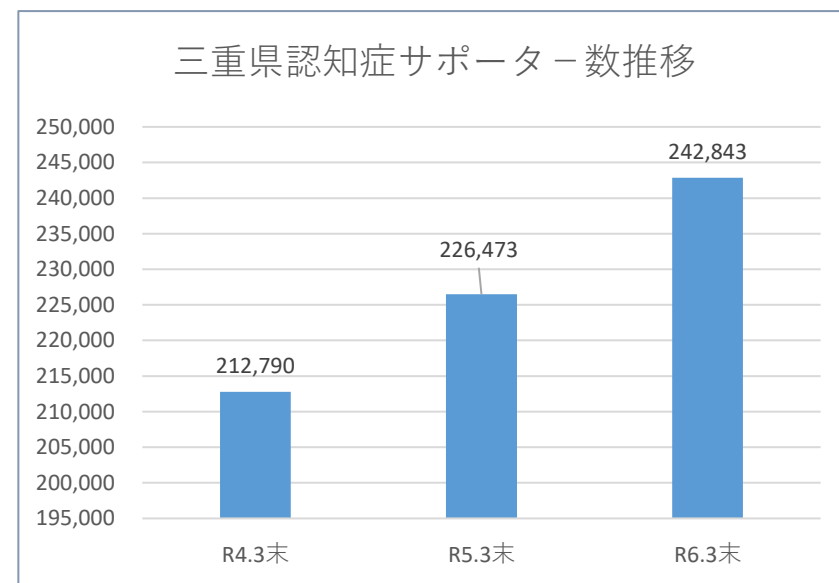
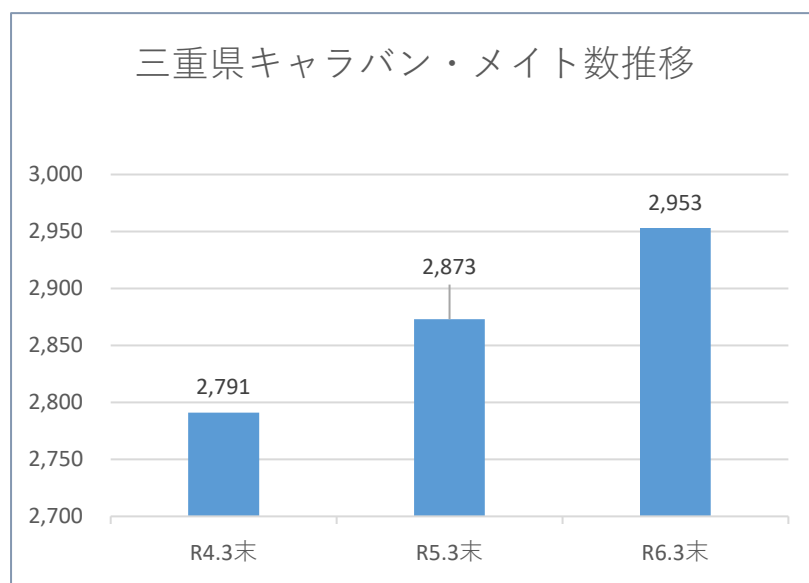
- ・ 講師：三重県オレンジ・チューター9名
- ・ 開催日：令和6年7月23日（火）三重県庁講堂 49名受講

# 令和6年度 三重県の認知症施策の推進 ①

## ～三重県キャラバンメイト・認知症サポーター数の推移～

### ★認知症サポーター等養成事業

認知症に関する正しい知識を持ち、地域や職域において認知症の人や家族を支援する認知症サポーター等を養成することにより、認知症の人や家族が安心して暮らす続けることのできる地域づくりを推進することを目的とする。



認知症サポーター数（令和6年12月31現在）

（全国） **15,982,083**人

（三重県） **255,245**人

※全国キャラバン・メイト連絡協議会ホームページより



## ○認知症施策推進大綱（KPI）

- ・2025（令和7）年
- ・全市町村で、本人・家族のニーズと認知症サポーターを中心とした支援を繋ぐ仕組み（チームオレンジなど）を整備

## ○三重県「みえ元気プラン」 【施策2-3】介護の基盤整備と人材確保

### 【基本事業3：認知症になっても希望を持てる社会づくり】

認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会をめざして、それぞれの地域で本人と家族を支えるため、認知症サポーターや認知症の人によるチームオレンジ等の支援体制を構築するとともに、医療と介護の連携を図り、認知症の予防や診断後の支援等に取り組むなど、「共生」と「予防」を車の両輪として認知症の人本人に寄り添った施策を推進します。

### 【KPI（重要業績評価指標）】

チームオレンジ整備市町数を令和8年度29市町に設置する。

令和7年2月末日現在、18市町31チーム設置済み

# 令和6年度 三重県の認知症施策の推進 ②

## チームオレンジに係る国・県の目標値について（その2）

### チームオレンジの設置状況

令和7年2月末日現在、18市町にて、  
チームオレンジが設置されています。

- 桑名市
- 鈴鹿市
- 伊勢市
- 松阪市
- 津市
- 鳥羽市
- 亀山市
- 御浜町
- 木曾岬町
- 東員町
- 玉城町
- 明和町
- 度会町
- 朝日町
- 多気町
- 四日市市
- 熊野市
- 紀宝町

令和7年度末までに全市町で  
チームオレンジが設置されるよう  
設置支援および活動継続支援を  
行っています！

### \* 三重県のチームオレンジの状況報告

県ホームページに掲載

\* 「三重県 チームオレンジ」と検索

<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/001137096.pdf>

# 令和6年度 三重県の認知症施策の推進③

## 認知症疾患医療センターの機能強化に向けた取組について

認知症疾患医療センターの3つの機能において、取組を強化しています。

### ① 専門的医療機能

- 認知症疾患に関する鑑別診断とその初期対応。
- 認知症の行動・心理症状と身体合併症への急性期対応。
- 専門医療相談。

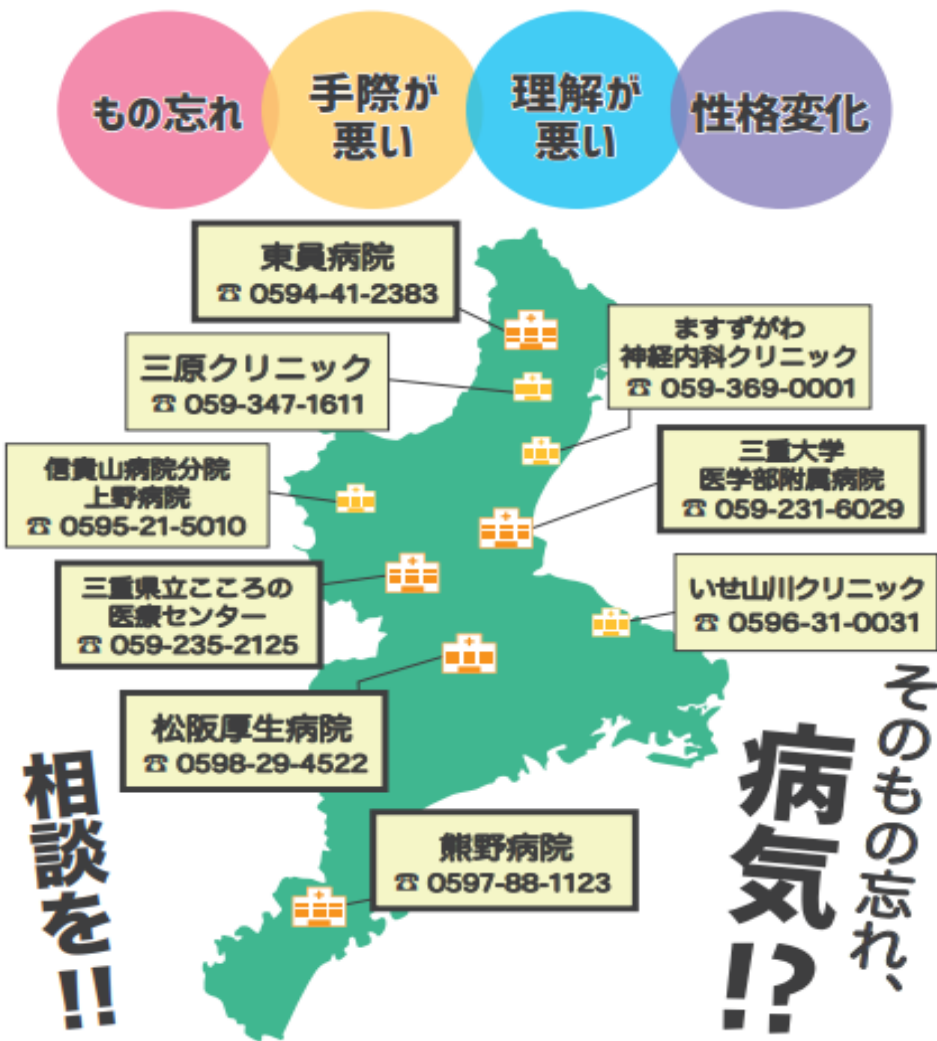
### ② 地域連携拠点機能

- 地域保健医療・介護関係者との連携会議や研修会等を通じた人材の育成等。
- 地域連携体制の構築。

### ③ 診断後支援機能

- 地域包括支援センター等と連携し、必要な相談支援を実施。
- 本人によるピア活動や交流会の開催。

## 認知症疾患医療センター



※本県では認知症の専門的医療の提供体制を強化するため、「認知症疾患医療センター」を指定しています。

# 認知症疾患医療センターは保健医療・介護連携の拠点

～ 地域における認知症医療体制ならびにその支援体制の推進に向けて ～  
～ 早期に専門医療へつなげて、関係機関と連携して介護サービスや地域の社会資源の利用支援を行う。～

## 《 医療サービス 》

### 認知症疾患医療センター運営事業

#### 専門医療

- ・ 専門医療相談
- ・ 鑑別診断
- ・ 急性期医療

#### 地域連携推進

- ・ 情報発信
- ・ 教育・研修
- ・ 連携協議会

### 診断後支援

- ・ 地域包括支援センター等と連携し、必要な相談支援を実施
- ・ 当事者等によるピア活動・交流会の開催

認知症疾患医療センター等レカネマブ最適使用推進ガイドライン適合施設

認知症サポート医

かかりつけ医

地域包括支援センター

認知症初期集中支援チーム

若年性認知症支援コーディネーター

《介護サービス》

介護支援専門員

介護保険事業所

《地域の社会資源》  
通いの場

認知症カフェ

チームオレンジ等

# 令和6年度 三重県の認知症施策の推進③

## 認知症疾患医療センターの機能強化に向けた取組について

### ● アルツハイマー病の抗アミロイドβ抗体薬に係る治療について

アルツハイマー病による軽度認知障害（MCI）あるいは軽度の認知症であることを的確に診断し、適正使用推進ガイドラインに基づく治療が開始されています。

### ● 認知症疾患医療センターにおける治療の実施状況について

◆ 令和6年1月～ 三重大学医学部附属病院において、

アミロイドPET等による検査および投薬（初期投与）の開始

◆ 令和7年2月～ 連携型認知症疾患医療センター3か所（神経内科

クリニック）において、投薬（初期投与より6か月以降の継続投与）を開始

- ・ 県では、国の補助金を活用し、抗アミロイドβ抗体薬による治療対応を行うセンターへ、運営費の加算を行っています。



# 認知症ケアの医療介護連携体制の構築事業について

①三重県認知症連携パス（脳の健康みえる手帳）の作成、普及

②認知症スクリーニングによる診断補助

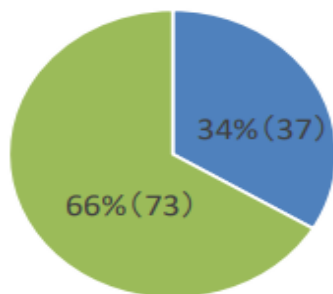
◎認知症の早期診療・介入を行う地域を拡大し、医療・介護のネットワークを活用することで、かかりつけ医と専門医との病診連携や医療・介護の連携の推進を図っています。

## 「認知症ケアの医療介護連携体制の構築事業」

※N=110名（スクリーニング実施者数）

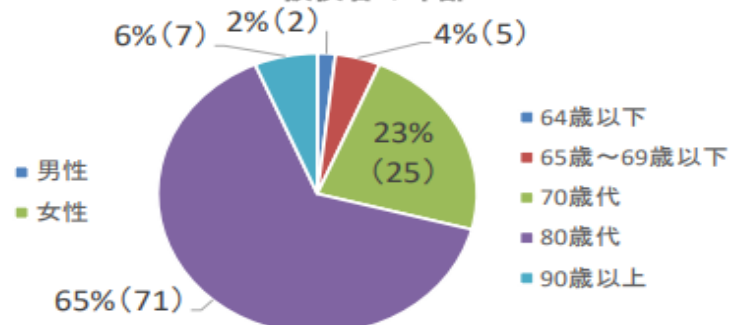
## （令和5年度）活動報告

被検者の性別



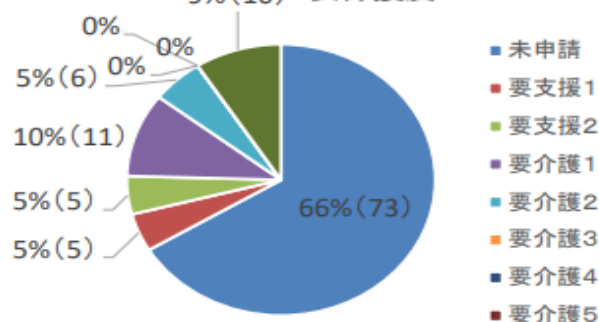
男性	37
女性	73
合計	110

被検者の年齢



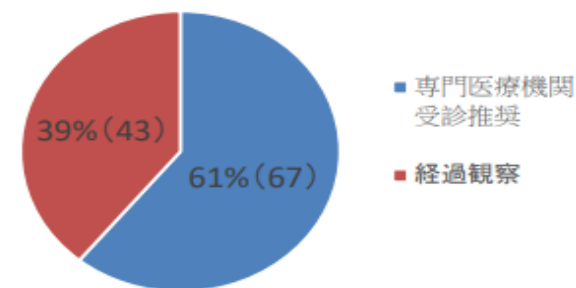
64歳以下	2
65歳～69歳以下	5
70歳代	25
80歳代	71
90歳以上	7
合計	110
平均年齢	81.7±6.5

要介護度



未申請	73
要支援1	5
要支援2	5
要介護1	11
要介護2	6
要介護3	0
要介護4	0
要介護5	0
申請中・変更申請中	10
合計	110

評価結果



専門医療機関受診推奨	67
経過観察	43
合計	110

# 第9期介護保険事業支援計画 安心安全のまちづくり① 高齢者の見守りネットワークについて

## ○令和6年度 認知症市町連絡会

・開催日：令和6年7月23日（火）三重県庁講堂 49名受講

・講師：三重県警察本部 生活安全部人身安全対策課

「認知症に係る行方不明者発見活動の現状について」

・令和5年度中では、99名の搜索願を受理している。都会と違い、山間部に迷い込んでしまう高齢者もあり、早期の搜索が重要である。

・県より、「三重県認知症高齢者等SOSネットワーク連絡調整事務要領」を説明し、市町へ再周知した。

29市町のうち、5市町においてSOSネットワークの構築がされていないが、防災無線等での配信といった他の対応がされている。

### 【課題】

・SOSネットワークシステム等の稼働訓練を実施できていない。課内、関係課、協力機関にあらためて周知と協力依頼が必要である。

# 安全安心のまちづくり② 権利擁護と虐待防止

## ○ 成年後見制度の中核機関の設置状況

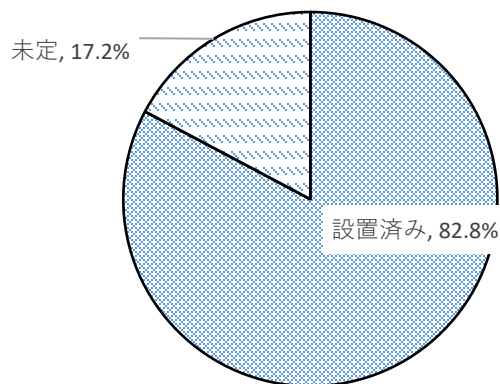
※令和6年4月1日現在

設置済（24市町）	桑名市、いなべ市、木曾岬町、東員町、四日市市、朝日町、鈴鹿市、亀山市、津市、名張市、伊賀市、松阪市、多気町、明和町、大台町、伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、大紀町、南伊勢町、尾鷲市、御浜町
-----------	--

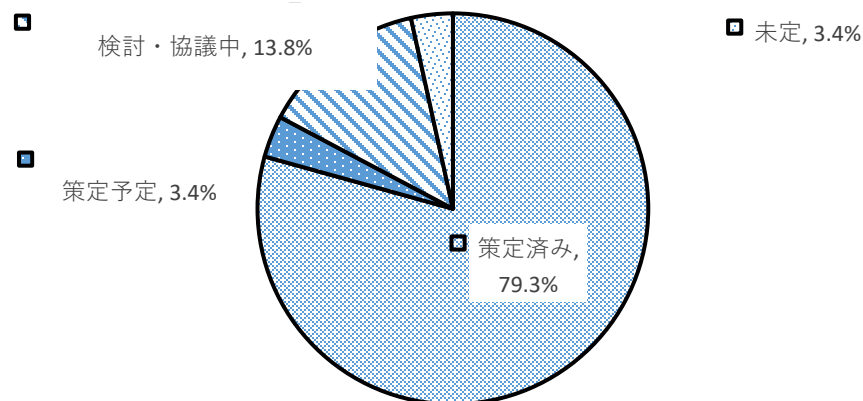
## ○ 市町成年後見制度利用促進基本計画の策定状況

策定済（23市町）	桑名市、いなべ市、木曾岬町、四日市市、鈴鹿市、亀山市、津市、名張市、伊賀市、松阪市、多気町、明和町、大台町、伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、尾鷲市、紀北町、熊野市、御浜町、紀宝町
策定予定（1町）	南伊勢町

中核機関設置状況



計画策定状況



※長寿介護課調べ

# 安全安心のまちづくり① 権利擁護と虐待防止

## ○ 成年後見制度利用促進市町支援事業

### 事業内容

#### ①三重県成年後見制度利用促進協議会（令和6年12月18日開催）

- ・成年後見制度利用促進に関する取組について、関係機関・団体等との連携・協力を図るとともに、着実な推進を図るため協議しました。

#### ②成年後見制度利用促進に向けた関係機関会議（令和6年10月4日開催）

- ・関係機関が成年後見の取組について情報、意見交換等を行い、連携を図りました。

#### ③市町職員及び市町社会福祉協議会職員スキルアップ研修

##### スキルアップ研修

- ・法人後見の担い手の養成に関する研修（令和6年8月6日開催）
- ・市町村長申立てに関する研修（令和6年11月27日開催）
- ・意思決定支援に関する研修（令和7年2月20日開催）

◆ 共生社会の実現を推進する認知症基本法の理念等を普及啓発する認知症フォーラムinみえの開催

令和6年11月21日（木）13時～16時

三重県総合文化センター 小ホールにて開催

- ・ 「認知症基本法を知ろう」 福祉ジャーナリスト 町永俊雄 氏
- ・ 「認知症の本人の思い」 国の認知症希望大使 丹野智文 氏  
～県内の取組発表～
- ・ 「認知症本人に関する取組について」 四日市市高齢福祉課
- ・ 「認知症フレンドリー社会に向けての取組」 鈴鹿市認知症連絡会
- ・ 「思いやりレジの取組」 マックスバリュ東海株式会社

\* 認知症の本人の思いの発信

\* 企業と連携した認知症の人の地域生活支援、  
認知症サポーターの活動紹介を行いました。

### ◆認知症フォーラムinみえ

・参加者数 268名

アンケート回答数 125名（回答率46.6%）

・（内訳）介護中のかた9名（7.2%）、介護経験者11名（8.8%）  
専門職72名（57.6%）、その他31名（24.8%）、未回答2名

・講演の内容について

**国の認知症希望大使である丹野智文氏の講演は、**

「大変参考になった」「参考になった」と回答した人 122名（97.6%）  
他の各講演内容についても、「大変参考になった」「参考になった」と回答した人の割合は、約85%～約95%であった。

### 【参加者の意見】

- ◆認知症の人を通して見る視点が共生社会を推進する上でとても大切。
- ◆認知症が特別でなく身近なことだと社会が知ることで当たり前のよう  
生活していけるようになると思った。
- ◆企業が協賛してくれるところが増えるといい。

◆ 認知症の人や家族等の意見を聴いて、  
施策に反映するための意見交換会の開催

令和7年1月23日（木） 13時30分～15時30分  
三重県総合文化センター 大会議室にて開催

- ・ 認知症の本人 3名
- ・ 介護家族 6名
- ・ 保健医療福祉介護の関係者 8名
- ・ 企業2名 マックスバリュ東海株式会社、株式会社 綿清商店

【出席者の意見】

◆ 認知症の本人より～

- ・ もっと身体を動かしたい。公園へ散歩したい。料理もしたい。  
認知症本人の意欲を奪わないでほしい。
- ・ 認知症の本人や家族等からの相談を、AIが24時間対応する仕組みがあると良い。小中学校で貸与、返還されたiPadなどを、高齢者に貸与してもらおうと、脳の活性化につながるのではないか。

### 【出席者の意見】

#### ◆家族より～

- ・ デイの前後の見守り支援、介護離職をしなくてよい支援を希望。
- ・ 本人が希望するときに、付き添ってあげられる仕組みを希望。
- ・ **BPSD**の症状があって、介護サービスの利用を断られる。  
大変な時にも、受け入れをしてくれるところがあると安心できる。
- ・ 車いすの人でも、旅行ができるシステムの整備を希望。

#### ◆保健医療福祉介護関係者等より～

- ・ 認知症が早期発見された後、支援につながりにくい面が課題。
- ・ 作業療法のプログラムを活用、**MCI**の進行予防の取組の拡充。
- ・ 家族、施設が負担感なくケアやサービス提供をできるようにしてほしい。
- ・ 認知症カフェ、集いの場は本人や家族にとって、有効なわちあいの場である。
- ・ 認知症を正しく知ること。本人の希望することを、地域で共に取り組んでいく。  
チームオレンジは本人のやりたいことを組み入れていくことが出来る。

#### ◆企業関係者より～

- ・ 買い物が「意思決定」の機会になるんだと気づいた。  
認知症の人の意見を取り入れた取組を続けている。
- ・ ご本人が自分で品物を選ぶ喜びに勝るものはない。  
若手社員にとって、高齢のお客様の話を傾聴し、生きた社員教育となっている。